

「こんにちは」から始まる国際交流



かにえ国際交流友の会

Kanie International Friendship Association

会報 No.9-B (Mar 2002)



KIFAクリスマス会風景 (2001年12月16日)



Contents

- ◇ 「KIFAへの期待」/町長 佐藤篤松 ◇ 「ワールドカップ」/会長 藤田美保・・・ 2
- ◇ 「より深い国際理解に向けて」/トスタオ ルフィンゴ・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◇ 「カナダに犬飼さんを訪ねて」/顧問 棚橋美知子・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ◇ 「バングラデシュの結婚式」/大島明博・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ◇ 「最近の海外旅行あれこれ-スイス編-」/富岡恒子・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ◇ 「いっしょに日本語はなしましょう」/渡辺エルジネチ・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ◇ 「日本での新しい人生のスタート」/タン リフン ◇ 日本語教室の紹介・・・ 6
- ◇ 「KIFA英会話教室に参加して」/太田幸子 ◇ 英会話教室の紹介・・・ 7
- ◇ 役員自己紹介/黒川邦子 ◇ 国際交流関連講演会、国際料理教室・・・ 7
- ◇ これからの行事予定/総会通知 ◇ 世界の国旗「フィリピン」・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ◇ 企業会員と賛助会員一覧 ◇ 編集後記・・・・・・・・・・・・・・ 8

「KIFAへの期待」

町長 佐藤篤松



日頃からいろいろな交流事業を行っている KIFA の皆さんには、心から敬意を払い、感謝を申し上げたいと思います。

さて、藤田会長に替わられてから早くも1年が過ぎようとしています。新しい道を歩み始めようと KIFA に対し、陰ながら応援

したいと思っております。

今年は、6月に日韓共催でワールドカップが開催されます。残念ながらこの地方では試合はありませんが、それでも多くの外国の方が名古屋周辺を訪れると思います。彼らに会ったときには、「こんにちは」と声をかけていきたいですね。交流の始まりは、やはりこの言葉からだと思います。

最後になりましたが、かえ国際交流友の会の益々の発展と会員皆さまのご多幸を祈念申し上げあいさついたします。

「ワールドカップ」

会長 藤田美保

会長になってほぼ1年が過ぎようとしている。結構大変だったのは毎月の役員会と各行事用の案内状等の作成であった。それに、今年は2回の会報の発行も行った。編集/レイアウト作業と手間は掛かるが、前回そして今回と充実した原稿が寄せられるようになって、大変だがそれなりにやりがいもあった。今、パソコン画面上で編集終了となったものを見てそう思う。

話が変わるが、もうすぐサッカーワールドカップが始まる。私としては非常に待ち遠しい。しかし、この期間中は仕事の上の空となりそうで今から怖い。日本代表のチケットは駄目であったが、ドイツ-カメルーン戦は入手できた。もちろん、「ハンブルグ市民との友好」のためにドイツ代表のユニフォームを着てドイツを応援するつもりである。

先日テレビで、ワールドカップ期間中の韓国の「民泊」プログラムを紹介していた。外国人観戦者を一般の家に無料で、あるいは安く泊めてあげるシステムで、いわゆる「ホームステイ」である。日本では公式にはこのようなプログラムは無いそうだが、個人レベルでの国際親善のまたとない機会なのにと残念に思う。

「より深い国際理解に向けて」

トスタオ ルフィンゴ

我々の世界がすでに21世紀すなわち第3千年紀に入っている今、国際理解は以前よりもずっと重要なものとなっている。

何年もの間、国際関係といえばそれは政治(力学)であった。そこでは、政府は個人よりも政治体系の方に深く関わっていて、どの国が友好的か敵対的かを決定し、あるいは選択していた。このことが本当の国際理解と言えるだろうか？

個人レベルでの国際理解は、従来の伝統的なやり方、すなわち政府対政府間のものよりも一層重要になってきている。この個人レベルでの国際理解を達成するために、私は下に示すいくつかの重要な点があると考えている。

一番目は、「大きな国際家族」中の単なる一員でなく活動的な構成員であるという強い意志とやる気(動機付け)である。二番目に、これを持った上で手段がある；ここで手段は言語(言葉)を意味する。一つあるいはそれ以上の外国語を理解することは他の文化を理解する大きな一歩である。三番目は、寛容さと柔軟性である；これは異文化を理解して受け入れるのに大変重要なものである。

以上の三つの要素は他の国を、そしてその文化をより良く理解する上で大きな助けとなり、いずれも等しく重要である。とにかく一番目の、強い意志とやる気が無くては何事も不可能である。

強い意志とやる気があってもコミュニ

ケーションの手段すなわち言語を持たない場合には、理解が乏しいか全くできないことになる。また、強い意志とやる気があっても、かつ外国語も習得しようとする意志があったとしても、文化の違いを受け止める寛容さと柔軟性を欠けば、人は国際社会をやはり十分理解できないことになるであろう。

我々にとって必要なことは自分の周りに防御の壁を築くよりもむしろコミュニケーションの橋を多く築き始めることである。「どれくらい我々が異なっているか」という視点を止めて、「我々が互いに互いに同じようであるか」を認めることを始めようではないか。

今見てきたように、これら三つの要素は個人対個人のレベルで可能であり、政府の対応を待つ必要はない。多くの政府が国際理解に失敗しているという事実がある。我々がより深い国際理解を望むなら、今は私たち誰もが行動を始めるべき時であろう。

私の場合で言えば、人種間で憎しみ合うよりは友好的であることの方が多く私は信じるから、自身の様々な国際的な出会いを私は非常に真摯に捉え大事にしている。

(原文は英語、藤田訳)



トスタオさんのお子さん達

(注)トスタオ ルフィンゴさんはタンザニアの出身で、現在蟹江町に住み、町のAET(英語教師助手)です。

お子さんの名：ヘリー、イマニはスワヒリ語でそれぞれ「平和」、「信心」の意味です。

「カナダに犬飼さんを訪ねて」

服部小夜子、鈴木つたえ、松原庸子、棚橋美知子の、
カナディアンロッキー縦走、カルガリー、ヴィクトリアの旅

顧問 棚橋美知子

「1年間は待っててね、こちらから来てって言うから。」1999年11月涙ながらに名古屋空港で見送ってから、1年半。5月28日、カナダ、カルガリーに住む犬飼さんに会いに私たち4人は、空港まで送っていただいた服部、鈴木両ご主人のカラ？元氣な見送りにもすこし後ろ髪をひかれながら名古屋空港を飛び立った。

名古屋からバンクーバーまで8時間40分、そこから国内線に乗り換えてカルガリーまで1時間20分、バンクーバー空港は巨大だから4人で無事たどりつけるかなど危惧する向きもあったが、あっけなくらい何事もなく予定通り、犬飼さんと再会できた。彼女が左ハンドルのトヨタ車で空港まで出迎えてくれた。釧路でよくお宅へ伺っていた頃と同じようにカルガリーのお宅へ暖かく迎えていただいた。1年半の隔たりも感じず、遠慮なくリビングにどっかりとくつろいでしまった。これが何よりうれしかった。待つてくださる方があるというのは、初めてでも見知らぬ町には思えないものである。きてよかった。

カルガリーはとてつもなく大きな平原というか、いくつもの丘が広がっている所で、道路がクモの巣のように走っている。道路に沿っておしゃれな家並みが続く。典型的な家は地下室があり、ガレージがついている2階建て(地下室入れると3階立て)で、手入れの行き届いた芝生に針葉樹や花木が点在する表の庭が道路に面していて、もうひとつひとまわり大きな芝生の裏庭がある。丘の上の方に高級住宅街があるらしい。石油で栄えた豊かなまち、1988年の冬季オリンピック開催地として知られている。

翌日5月29日、カルガリーを発ち、バンフからレイク・ルイズ、ジャスパーまでカナディアン・ロッキーの山々を縫うように走るアイスフィールドパークウェイをひたすら北に走った。世界で1番美しいハイウェイと言われているそうだ。もちろん、犬飼さんも一緒に。山間部にはいと細かい雪が降り始めた。観光をしたり、路肩に車を止めて山の中腹にクマヤマウンテンゴートなどを見つけたり、またドライブインで、超特大の味はまいちのサンドイッチを頬ばったりして、10時間くらいかけてジャスパーにたどりついた。寒かった。湖も氷が解け始めかけたところだった。そして、4日間かけてゆっくりとカルガリーへ帰ってきた。風景ばかり

でなく、天候、野生動物とのあちらこちらでの遭遇、1時間にもものぼる乗馬での山中散策、趣の変わった温泉入浴など色々な体験を含めて日本とはまったく違う壮大な大自然を満喫させてもらった。

「ベストシーズンは、雪解けて滝の水量も増え、湖の水が解け始める5月下旬から、6月中旬」とガイドブックに書いてあった。水河から流れ出たミネラルを含む湖水が太陽の光に反射して湖の青色はそれぞれ違うが、

いちばん青みが美しいのは湖面を覆う氷が溶けた直後のころだそう。トルコ・ブルーのペイト湖、エメラルド色のエメラルド湖、ボウ湖、モレイン湖、マリオン湖、レイク・ルイズ等等など、まさにベストシーズンに湖を周ることができた。こんなに色々な碧さがあるのかと感動した。

カルガリーには最初と7日目しか滞在できなかった。「私に会いにきてくれたんじゃないの？カルガリーにもっといてよ！」と引き止める犬飼さん。でもせっかくカナダまで来たのだから他も行ってみたい私たち。またすぐに会いましょうと約束してカルガリーをあとにした。空港での別れは涙が止まらなかった。本当にご夫妻にはお世話になりました。

最後はカナディアン・ロッキーとはがらりと趣きの違うヴィクトリアへ向かった。ヨーロッパ調の、花に囲まれた瀟洒な町並みであった。ダウンタウンから10分足らずのオークベイという町にある、海に面したイギリスの田舎家風の小さなホテルに泊まった。道路の舗道にはブナ？の巨木の並木があって、その木の周りに美しい花々が咲き乱れていた。道路に沿った家々は屋敷も庭も見事だが、その道路脇もそれぞれ趣向を凝らしたガーデンになっていて、通行人はそれを楽しみながら散歩ができた。花の組み合わせのセンスのよさも素晴らしいが、公の場所も美しく飾ってしまうという住人の心意気に感心させられた。一泊ではちょっと短すぎて心が残った。

でも大満足の10日間のカナダ旅行だった。犬飼さんに感謝。同行の他の3人に、そして家族に特に夫に感謝。

注) 犬飼さんはKIFA創立時からの役員でした。文中にありますように1999年、カルガリーで陶器店、「うつわの館」を経営するため夫妻でカナダに移住されました。



テンピックスを背景に
モレイン湖の前で記念撮影



「うつわの館」の店内にて、左から
筆者、服部、犬飼夫妻、松原、鈴木

「バングラデシュの結婚式」

大島 明博

2001年は私の3人の友人に長子が誕生しました。3月にハンブルグのMarcusに女の子、6月にシアトルのMike & Shanaに女の子、10月にダッカのJoに男の子、ちなみに彼の名はJafarullah Maha Thir Nippon というのだそうです。



Siddiqiさんと
新婦のNahidさん

以前、シアトルでの結婚式の様子を会報に載せていただいたことがあります。今回は2年前Jobiullah Siddiqiの結婚式に参加したときの様子を思い出すままに書いてみました。彼は4階建てのマンションの8部屋あるうち2室を借りていました。2階部分に兄さん家族4人が住み、1階部分に新婚夫婦が住めるよう準備されていました。新婦のために用意されたベッド、夜はもちろん蚊帳付き、天井には大きな3枚パネのファン、そんな部屋に申し訳なくも2晩、泊めさせていただきました。

その家で結婚式が行われる事が分かるよう、屋上から紅色の布が正面玄関を囲むように垂れ下がり、しかもクリスマスのイルミネーションの如く赤や緑の豆電球が建物の正面全体にちりばめられ、裸電球1つだけの薄暗い一般家庭とは違った雰囲気が漂っていました。

私たちと同様、親類縁者が2、3日前から狭い部屋に泊り込んでいましたが、式当日の2時間前、新郎と親族の女性(15人ほど、しかもすべて美人)だけが1室に入りある儀式を行います。もちろん私も彼の横に座りましたが、それはいろんな食物を既婚女性から順番に彼に食べさせるのです。そのあと、未婚の女性から順に新郎の前で祝いのダンスを披露するのです。インディアンダンスとでも言うのでしょうか、私は脳みまいベリーダンスを想像しましたが、正にハーレム



結婚式当日の食事風景

の如く天国にでもいる気分でした。

1時間ほど過ぎてから、結婚式が行われる会場までは新郎と2人の娘、日本からの客人が乗り、王侯貴族よろしく馬車で1時間かけて市の中心部にある公会堂まで出かけました。新郎側の客達はバスで一緒に行きました。会場に着いたらびっくり、新婦側の客人達はひたすら食事の真っ最中。新郎側の客も同様、彼どの記念写真もそこそこに真っ先に食堂へ飛び込む始末。新郎新婦が並んだ姿を想像していましたが、見事に予想を裏切られました。

イスラムの教えの如く、妻は控え室にて待機、式が終了して一般客がすべて帰路につくまで彼女は姿を現しませんでした。会場で知り合った医者夫妻の語に寄れば、イスラムの結婚式は普段食べる機会のないチキンとビーフ入りのカレーを腹いっぱい詰め込むことに尽きるのだそうです。食堂には200リットルぐらいのミルクに似た消化促進飲料があり、それをウェイターが各自のコップに何杯も注ぎ足します。彼らの食欲ぶりに圧倒された私は、肉は食べる気にならず彼らが見向きもしないきゅうりをおかずにつまんでいるだけでした。



結婚式前日のNahidさん

その晩は涙をいっぱいためていた新婦も、2日後に会った時にはすっかり打ち解けて明るい娘に戻っていました。私は彼らの初夜を邪魔したくなかった事もありますが、彼の親族特に若者から連日質問攻めにあっていて疲れていたのも、医者夫妻の勧めもあって彼らの家に泊めていただきました。広島大学で5年間勉強したという彼はとても親切で、市内をあちこち案内してくれました。

注) SIDDIQIさんは日本に滞在中、当KIFAの催しに熱心に参加されていた外国人会員でしたが、2000年2月バングラデシュに帰国されました。

バングラデシュ人民共和国について

首都/ダッカ、国土面積/日本の約0.4倍、人口/約9億7千万人、言語/ベンガル語(公用語)、英語、主な宗教/イスラム:88%、ヒンズー:11%

富岡恒子

「2001年9月11日、米同時多発テロ」のニュース。ショック！アメリカの友達の気持ちを考えると心配でたまらない。ヨーロッパ旅行を1ヶ月後に控えた大事なときに大変なニュースだ。案の定、友人A子は「今回の旅行は中止にしよう」と言ってきた。私はどうしても行きたい。アルプスの美しい自然が私を呼んでいる。数人の友人に依頼するが、今の時期はヤメておく、次回に誘っての返事だ。友人B子で最後と思ひ電話をする。と、快くOKの返事。嬉しかった。すると次の日、A子は旅行会社へ電話した結果やっぱり行くとの返事。さーて困った。今度はB子に断らなくてはならない。正直に話しわかってきて、おみやげを買ってくる事で一件落ち着いた。

旅行の前からトラブルがあったので旅行中も心配になり、9月の終わりから家中を冬支度にした。両親にも今回の旅行は内緒にして行く事にした。主人のパスポートの準備もし、子供達にもポストに出さない手紙を書いた。私がいなくなっても困ることのない様準備万端整えて旅行の日を迎えた。

10月9日(火)晴天、午前7時30分名古屋空港集合。総勢18名のスイスツアーの出発。スイスへは直行便がなくソウル経由で行く。コリアンエアにてソウルからチューリッヒに向かう。所要時間約11時間30分、時差7時間のクローテン国際空港に着く。専用バスでベルンへ向かう。ホテルはベルン中央駅前6階建ての3つ星ホテルだった。今まで5つ星ホテル泊だったのでとても狭く感じた。エレベーターも手動式だ。5階の室になったがヨーロッパでは4階という。朝食もコンチネンタルで、コーヒーとジュースとパンだけで質素である。

一日目も無事にすぎ二日目を迎える。スイスを訪れた人が必ず行くというユングフラウヨッホ終日観光。標高3454mで最も高い鉄道駅があり、アルプスの真っ只中から眺める白銀の山々と氷河はすばらしい。

登山列車で一緒だったインド人のグループとアイスパレスで再開し仲良しになる。世界一高い郵便ポストもあり、手紙を急いで書く。ユングフラウヨッホを後にして、次はトリメンバッハの滝見学。エレベーターで上へ行ったが、とても広いエレベーターで、薄暗く

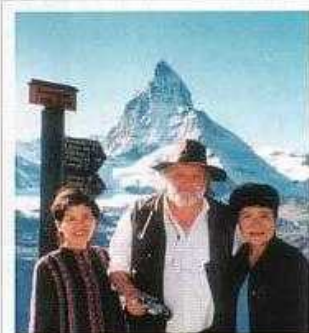


気味悪かった。次のブリエンツ湖遊覧ではアメリカ人とお話をした。戦争が始まったので一時スイスにきたそう。船内では飲物は高いと思ったが、陸地と同じでコーヒーとビールも同じ価格だった。飼犬も10匹以上乗船していた。夜はベルン市政府観光局主催の夕食会で、皆ド

レスアップして出かけた。

三日目はマッターホルンとゴルナー氷河終日観光。バスごと列車に乗るカートレイン。ツェルマットは環境保護のため自動車乗り入れ禁止である。バスから電車に乗り換えるが、中は広い場所があり、自転車や犬も乗車している。

ゴルナーグラート展望台へ向かう途中、スイスで2番目に高いマッターホルン(4643m)が右側にずーと見える。素晴らしい！



四日目はベルン市内観光。首都のベルンは町全体がユネスコの世界文化遺産になっている。中世風の街で、森や公園がたくさんあり、ローズガーデンの-high台からの見晴らしは最高である。園内でコーヒーを飲んだが、私達は店内、外国人は皆外のテーブルで飲食をしていた。時計塔のそばでは青空市場が開かれ、本通りの中央には11個の彫像の噴水と、みなすばらしい造りであった。

五日目はルツェルン市内観光。カベル橋はヨーロッパ一古い木造橋で長さ約200mもあり、110枚の三角形の板絵が取付けられていた。ライオン記念碑、ホーフ教会を見学後、チューリッヒへ向かった。空港では鈴鹿サーキットから帰ってきたカーレーサーと話をした。コリアンエアにてソウルに向かう。帰りは11時間だが機内が揺れて全然眠れない。

六日目やっとソウルに着く。乗り換えで空港内で5時間も待つ。格安ツアーなのでしかたがない。名古屋空港に着き税関に向かうと、若い女の子がスーツケースの中身を調べられている。行きも厳重なチェックだったが、帰りはカバンの中まで調べられるのかと思った。ところが、スイスの帰りの我々はノーチェックで通れた。ヤレヤレひと安心した。歴史的なテロの影響はいつまで続くのか。無事帰国できてよかった。ロビーでは主人やA子の家族が出迎えてくれた。18名のツアー仲間とも再会を約束し別れた。

2002年1月20日(日)、18名のスイスモニターツアーの仲間と新年会の写真交換会を開催した。一組以外は再会でき、6日間の晴天に恵まれた事、時差ぼけになった事、個々の参加者が、仲間になった事など、楽しかったスイスの話しは続いた。この仲間でも又旅行しようとの話にもなった。世界の航空業界も大不況で海外旅行も大変だけど、国内・国際交流をこれからも深めていく富岡恒子です。

「いっしょに日本語はなしましょう」

渡辺エルジネチ

こんにちは、私はエルジネチです。5年前にブラジルから来ました。今、かにえのじどうかんの2かいで、日本語のべんきょうをしています。先生たちはとてもいい人ばかりで、しんせつに教えてくれます。私はもうふつうの会話はできるようになったので、かん字のべんきょうをしています。私には3才になったばかりの子どもがいます。多美(たみ)という名前です。小さいお友だちがたくさんいて、あそぶも



娘の多美ちゃんと筆者

のもいっぱいあるので、かのじょはここが大好きです。私もここに来て友だちもできて、楽しく日本語で話しています。先生がすすめてくれたので、もっとべんきょうして日本語けんていにちょうせんしたいと思います。



注) 渡辺エルジネチさんはKIFA日本語教室(火曜日クラス)の受講者です。右の写真はオールドセイドアハメドさんの講演会の後、モーリタニアの民族衣装を試着した時に撮ったものです。

「日本での新しい人生のスタート」

タン リフン

私は2000年11月、夫とともに日本に引っ越してきました。それは私の人生に大変大きな変化をもたらすものでした。日本の地を踏んだ時、私にはまるで新しく生まれ変わったような感覚がありました。すべてのものがとても新鮮で色鮮やかに見えました。人々、食べ物、植物、景色など私を取り巻くすべてのものがとても魅力的で、私は興奮を抑えることができませんでした。しかし、残念ながらその興奮は長続きしませんでした。新鮮さ、色



日本語教室風景と筆者(右奥)

鮮やかさはすぐに色あせてしまいました。私は日本が単一言語(日本語のみ)の社会であるという現実打ちのめされてしまったのです。

鮮やかさはすぐに色あせてしまいました。私は日本が単一言語(日本語のみ)の社会であるという現実打ちのめされてしまったのです。

のない私にとって、それは随分と異質な世界にうつりました。しかもそれは私に理解のできない日本語一色だったのです。夫からは話は聞いてましたが、私はまさかかと、真剣に耳を貸しませんでした。

今では日本で生き延びるためには日本語を学ばねばと痛感しています。私は去年の9月から、蟹江中央公民館での日本語教室に参加させていただいています。少しでも上達できたらと、蟹江児童館での教室にもお世話になっています。両教室での先生方とても親切で暖かな指導を受け、私の日本語は随分上達したとお褒めをいただけるようになりました。

教室では日本語の勉強にとどまらず、日本文化についても多くを学んでいますし、また世界各国からの多くの人々に会える喜びもあります。両教室の先生方に本当に心から感謝しています。彼らがいなかったら、私はきっと今でも家の中に閉じこもったままであったことでしょう。

注) タン リフンさんはマレーシア出身で、KIFA日本語教室(火曜日と土曜日の両クラス)の受講者です。

KIFA日本語教室「日本語しゃべろう会」の紹介

★ 火曜日クラス：毎週火曜日夜、蟹江児童館 ★ 土曜日クラス：毎週土曜日夜、中央公民館
連絡先 (KIFA 役員)：石田優子、TEL/6-3936 連絡先 (KIFA 役員)：八神里美、TEL/5-0307

お知り合いの外国人の方達に上記教室があることを教えてあげてください(もちろん無料です!!)。

これらの教室では日本語講師のボランティアも募集しています。関心のある方、上記の役員までご連絡下さい。

「KIFA英会話教室に参加して」

太田幸子



ジョンさん

昨年7月から月2回公民館または分館で、Jon山本先生に楽しく英会話を教えて頂いています。

教室では、日常の挨拶を中心に自己紹介等、身近な例で、なごやかに会話の練習をしています。またテキストも並行して学んでいます。生徒は20代から60代くらいまで幅広く、現在16名がメンバーとして登録されています。メンバーが多いので、先生がいろいろと工夫して下さっています。



英語で対話中の筆者(左)

初めの頃、先生の英語(AMERICAN-ENGLISH)が聞き取れなくて、内容が理解できないことが時々ありました。ところが近頃は大体の意味が理解できるようになってきました。これってすごいでしょ？先生の手振り、身振り、眼差しがとっても会話を解り易くしていて、楽しい気分になるのです。先生の出身地ハワイの話も時々して下さいませいか、教室は2月でも暖かい

雰囲気に含まれています。

メンバーはきさくない方ばかりで、いろいろな年代の方と話が出来るとは毎回楽しみに一つです。わからない時は、先生に日本語で質問すると、「In English」(英語で)と言われるのでなんとか単語を並べると、解りやすく英語で説明して下さいます。「私の英語が通じている！」と実感できる瞬間です。これからますます世界中の人と接する機会はふえてくるでしょう。英会話を学ぶチャンスと、良い先生と良い仲間恵まれ、私達は本当にラッキーです。

注) 太田幸子さんはKIFAの英会話教室の受講者です。

KIFA英会話教室の紹介

★ ジョン山本クラス：月2回日曜昼、中央公民館
連絡先 (KIFA 役員)：青木猛、TEL/0567-31-1236
ただし、このクラスは現在受講者満席です。

★ なお、KIFAではこのクラスの他に、第2、第3英会話教室を開設する方向で計画を進めています。すでに送付しました募集案内をご覧ください。

役員自己紹介 監事 黒川邦子

二年位前のことです。スーパーで外国の方と目が合ったことがありました。その方はニコッと笑ってくれましたので、私も思わず微笑み

ました。「こんな時、何か一言言えたらいいのに」と思ったことを憶えています。



そこで、昨年 英会話教室に入会してみました。外国語を習うことにより、色々な国の方ともっと気軽に触れ合えるようになったらと思っています

国際料理教室「キムチを使う料理」

講師：文順 (モン スン) さん

2002年3月10日(日)、中央公民館調理室



文順さん

約30名の参加者の方が、文さんの指導のもとに、韓国料理の「キムチ巻き」、「チヂミ」、「チヂミチゲ鍋」を和気あいの雰囲気の中で調理を楽しみ、最後に試食いたしました。



当日の料理教室風景

国際交流関連講演会「私の国モーリタニアと日本の生活」

講師：オールド セイド アハメド氏

2002年2月17日、中央公民館分館

上記の講演会が約50人の聴衆を集めて開かれた。演者はモーリタニアからの留学生である。民族衣装を着て、資料をOHPで示しながら、当初の予定時間1時間を大幅に超えた講演であった。話はイスラムの国、モーリタ



ニアの社会と風習に関するものが主であった。アラブ系の友人がいるのでイスラム社会の慣習については知っているつもりであったが、「一種のカーフト制度が存在した(している)こと」とか、「アフリカの国でありながらこの国内でアフリカ黒人が差別されがちであること」等の話は驚きであった。(藤田記)

KIFA 主な行事予定 (2002年度前期)

定例総会 (下記) 2002.4.14 (日)
 親善ボーリング大会 2002.5.12 (日)
 町民夏祭り参加出店 2002.8.10 & 11
 町民秋祭り参加出店 2002.10 (予定)

**2002年度定例総会と
懇親パーティー**

時：2002年4月14日 (日)
 総会：11:00～ パーティー：12:00～
 所：蟹江中央公民館分館3階会議室

定例総会と、その後に懇親パーティーを開催します。パーティーでは、各国の料理、音楽演奏等を楽しみながら歓談できるよう計画しております。会員の皆様はもちろん、国際交流に関心のある方もぜひご出席下さい。

**ルイジアナからの高校生
ホームステイ先募集 (予告)**

期日 (期間)：2002年6月末あるいは7月始めの1週間、募集ホスト数：4家族 (相手高校生4名)、主催者：日本ルイジアナ友好協会

一昨年にKIFAが引き受けたものと同様です。詳細が分かり次第後日案内を出す予定です。

世界の国旗シリーズ：「フィリピン」



8本の光芒は独立革命に立ち上がった8都市を、3個の星はこの国の主な3地域を表す。赤は勇気、青は格調高い政治目的、白は純潔と平和の象徴である。

ご協力ありがとうございました。引き続きご支援をお願いします。

企業会員

(株) アイエス	蟹江住宅設備 (株)	日光鋳工場 (株)	山田建設 (株)
----------	------------	-----------	----------

賛助会員

(株) 片桐銘木工業	蟹江広寿司	観音寺	共同建設 (有)
高坂英次	たちばなや	月星歯科クリニック	東海興業 (株)
仏光寺	フミン加工 (株)	松岡豊泉閣	(株) 松はま
松屋 (株)	丸信製粉 (株)	(有) 宮長食品	もへの寿司
山田栄子	山本美代子		

☆☆ 編集後記 ☆☆

今回も前期会報と同様、パソコンによる編集 (DTP) を行いました。内容、デザイン、レイアウトその他についてのご意見をお寄せ下さい。

この会報への原稿等は常時受け付けています。在住外国人の方からの意見も取り上げたいと思います。原語のままでも結構です。機会があれば周りの外国人の方に伝えて頂くようお願いいたします。(ふ)

かにえ国際交流友の会

会長：藤田美保
 TEL: 05679-5-9724 / 052-872-5855
 E-mail: fujita@nsc.nagoya-cu.ac.jp

事務局：蟹江町役場総務部企画課内
 〒497-8601 蟹江町大字西之森字長三郎2
 TEL: 05679-5-1111, FAX: 05679-5-9188